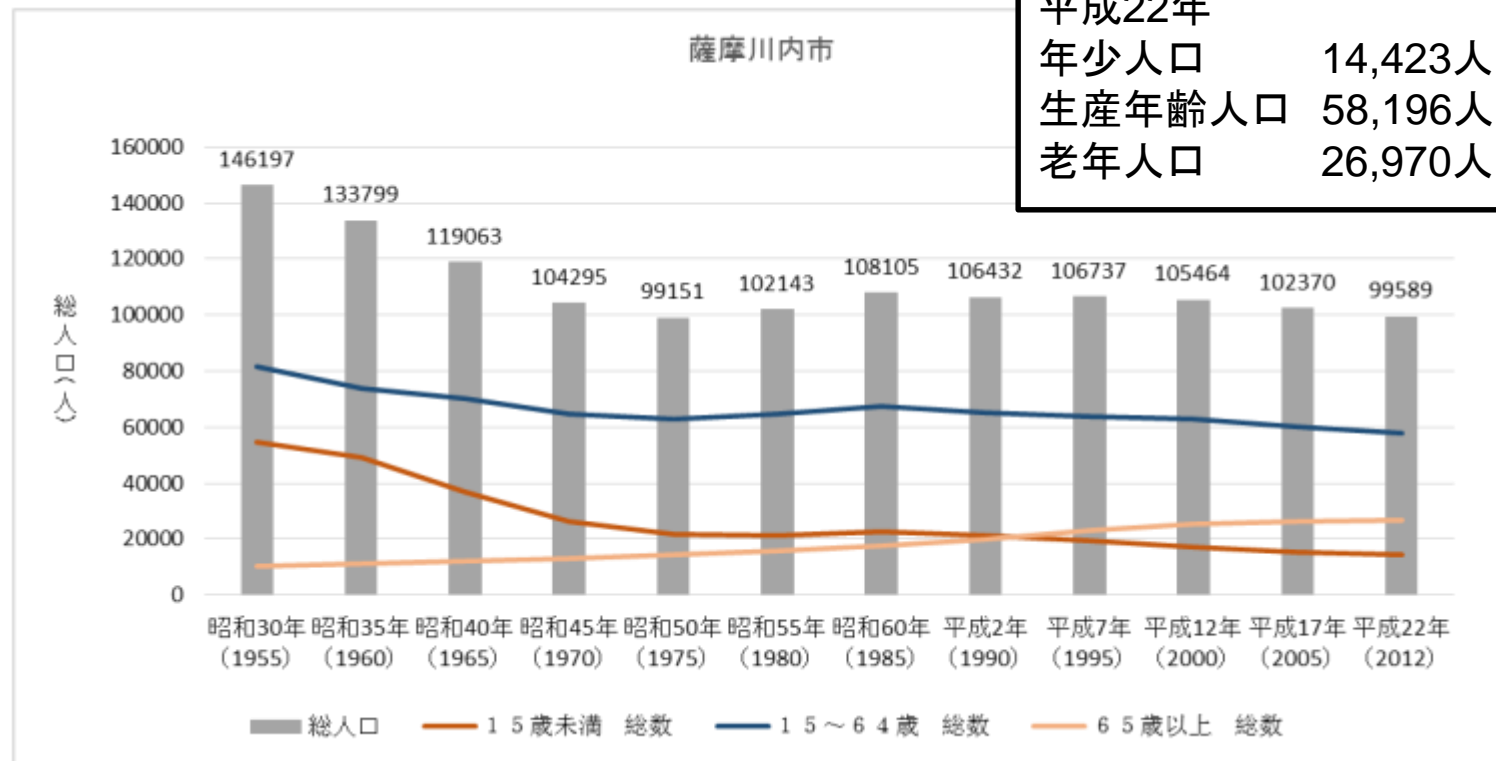


# 薩摩川内市の人口推移

資料 I - 1 - 1

※国勢調査の数値  
※合併以前は、合算したもの。

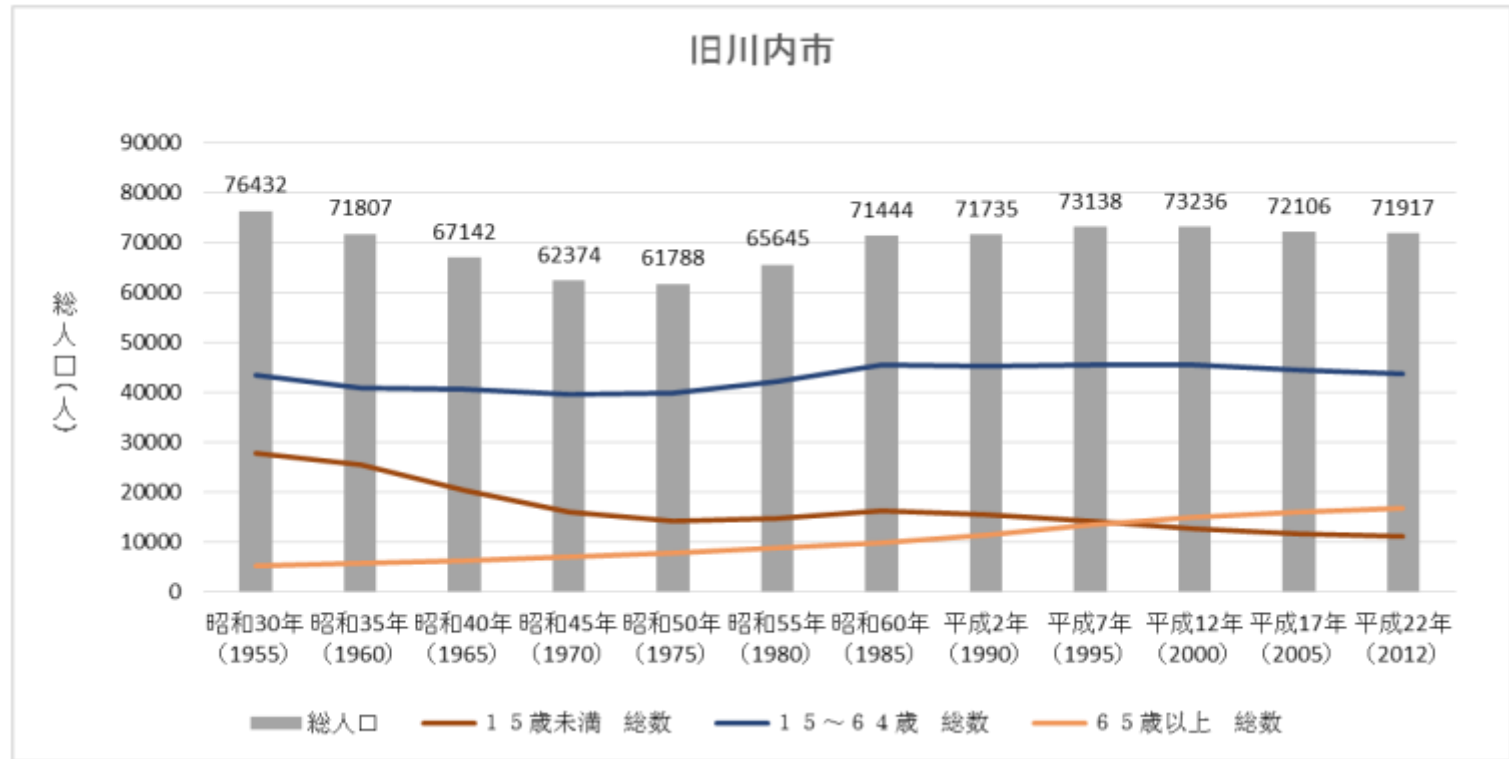


平成22年		
年少人口	14,423人	14.5%
生産年齢人口	58,196人	58.4%
老年人口	26,970人	27.1%

昭和50年を最低値とし、昭和60年まで増加し、平成7年以降は減少傾向にある。老年人口の増加を大きく上回る年少人口の減少及び生産年齢人口の減少が要因といえる。

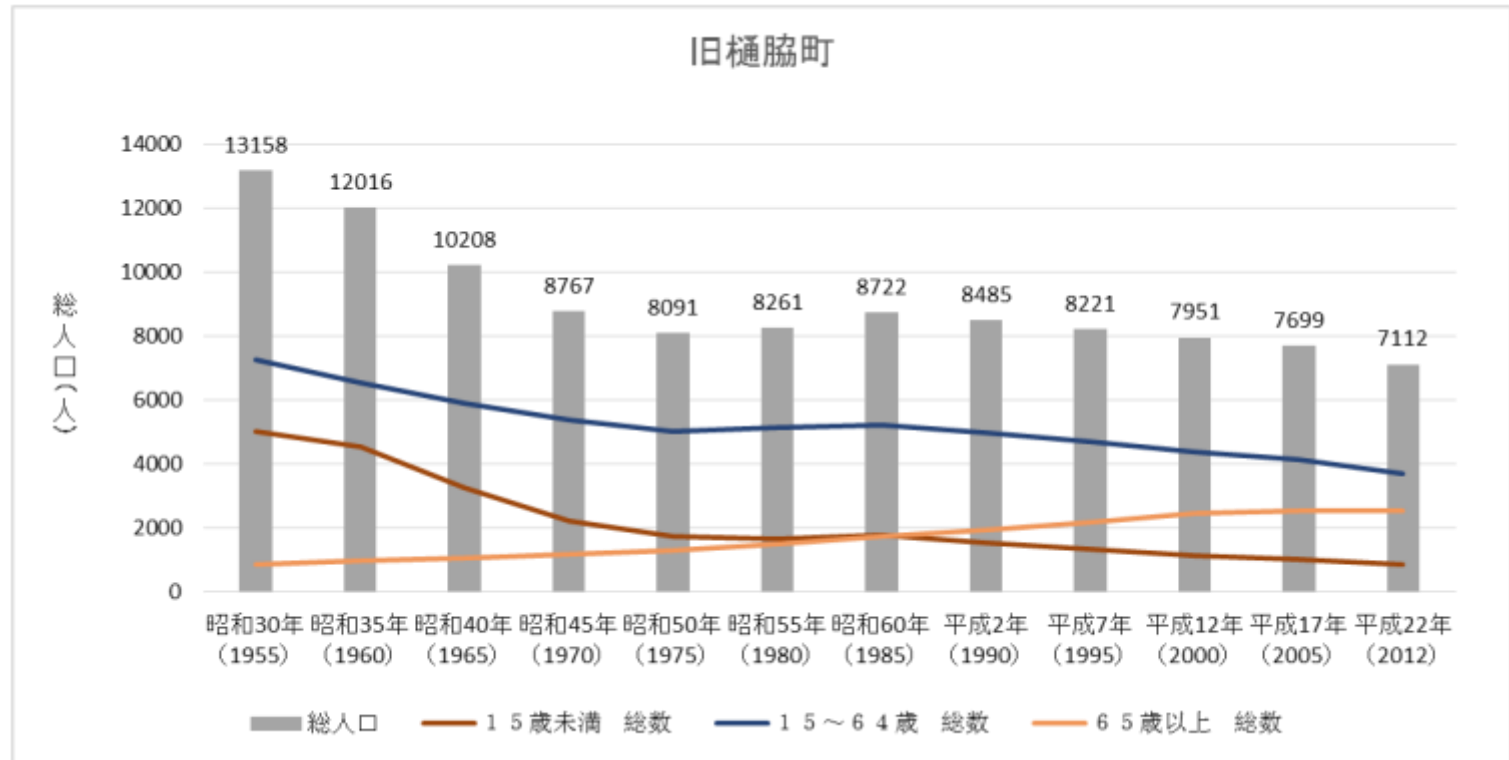
平成17年→平成22年:  $\Delta 2.7\%$

# 川内地域の人口推移



昭和50年を最低値とし、平成12年まで増加し、その後はやや減少傾向にある。  
別表の出生数の減少を考えると転入者数で補っていると考えられる。  
平成17年→平成22年:  $\Delta 0.3\%$

# 樋脇地域の人口推移



昭和50年から60年まで増加していたが、その後は減少している。特に平成17年から22年の減少数が大きくなっている。

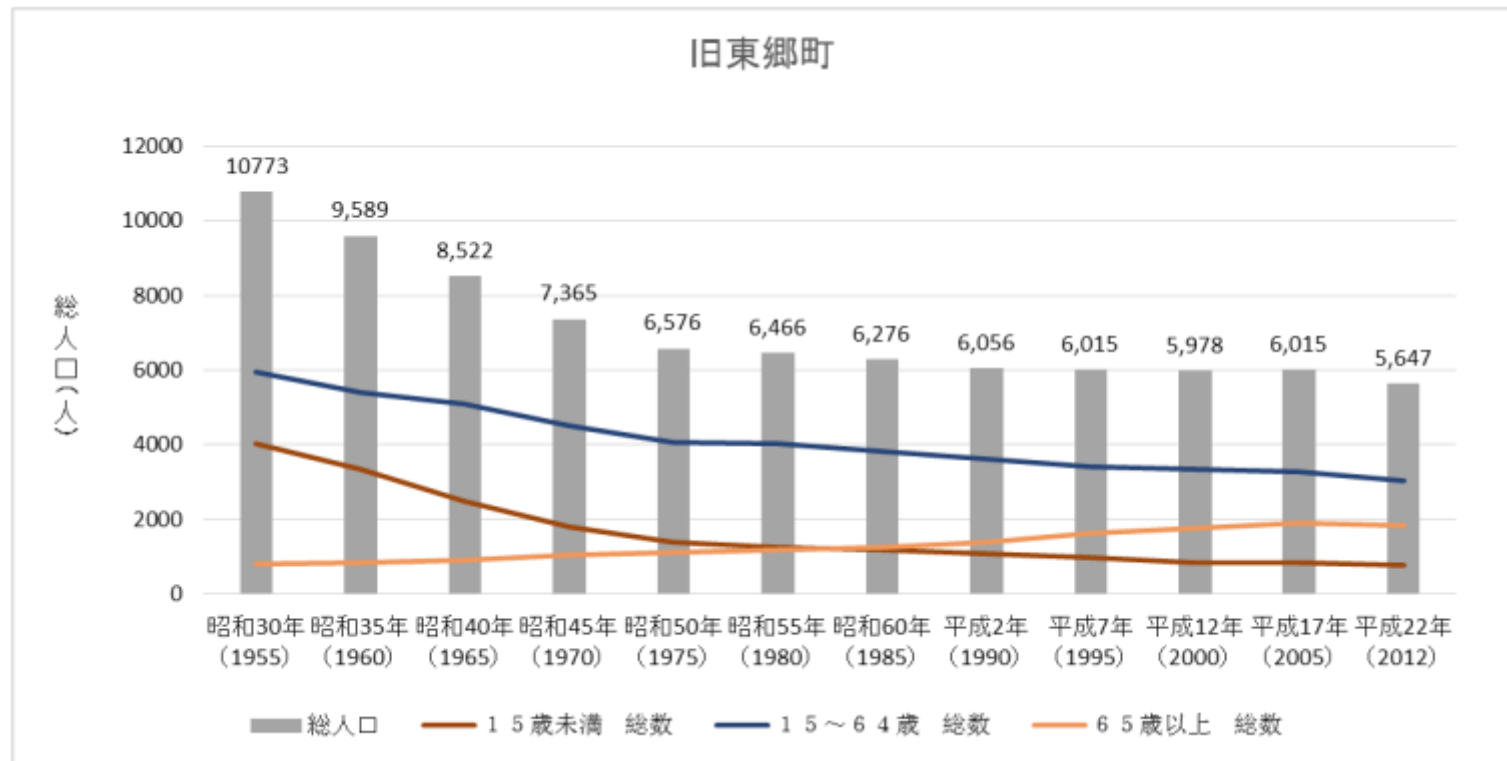
平成17年→平成22年:  $\Delta 7.6\%$

# 入来地域の人口推移



旧樋脇町と同様に昭和60年に増加したもののその後、減少傾向で推移している。  
平成17年→平成22年:  $\Delta 10.4\%$

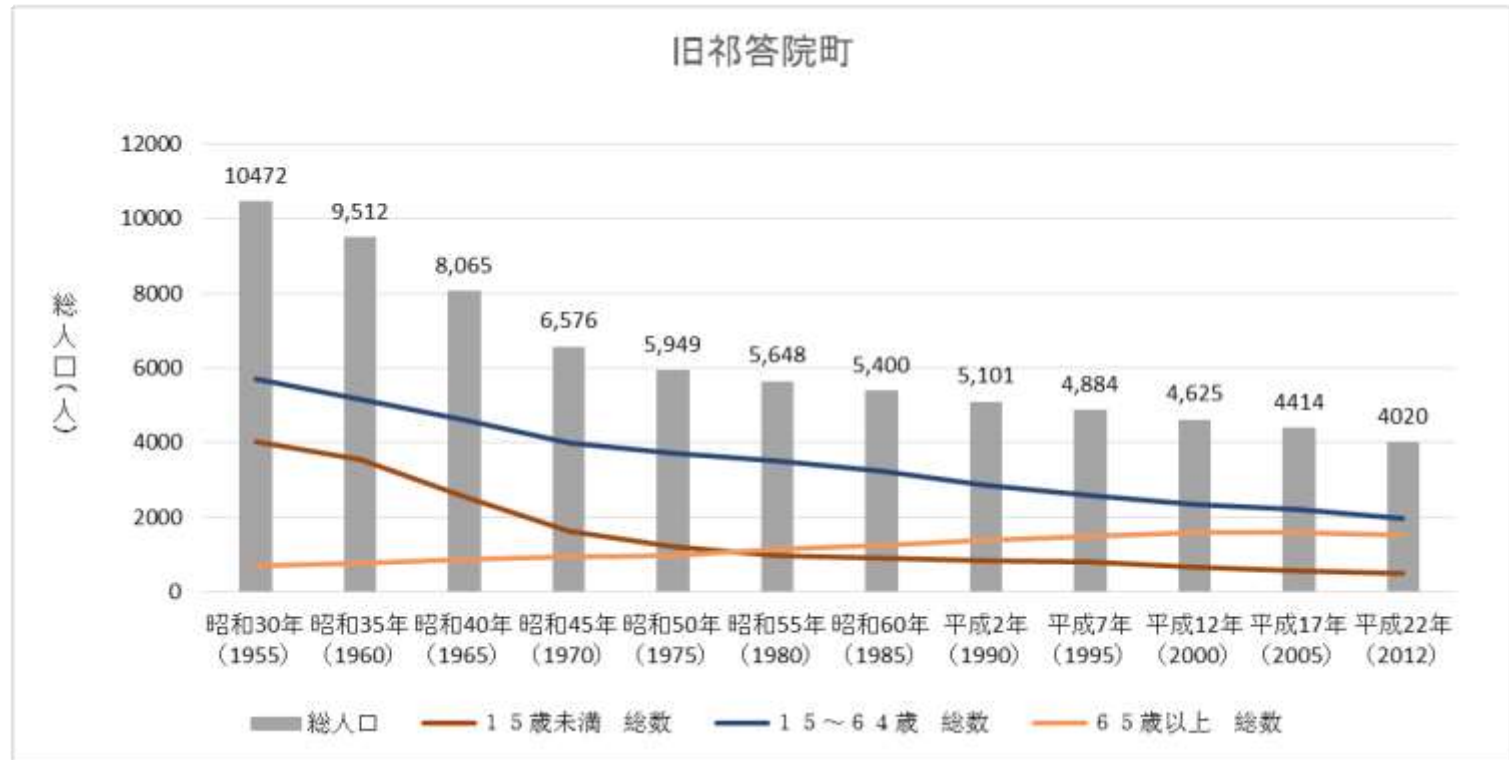
# 東郷地域の人口推移



昭和50年以降、ゆるやかな減少傾向で推移してきたが、平成22年の減少数が大きくなっている。

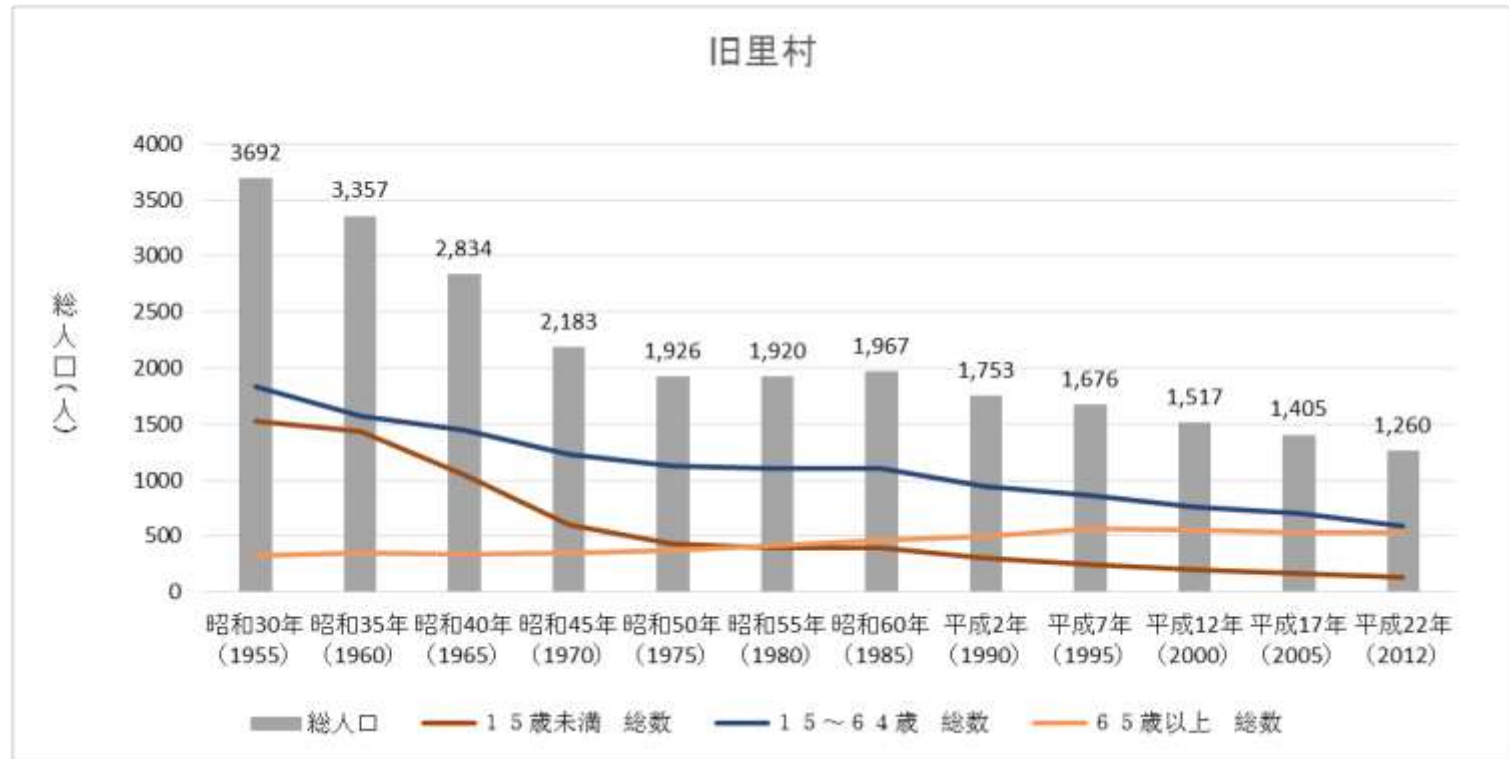
平成17年→平成22年:  $\Delta 6.1\%$

# 祁答院地域の人口推移



なだらかであるが確実に人口が減少している地域であり、昭和55年から老年人口が年少人口を上回り、その後も高齢化率が高くなっている。  
平成17年→平成22年:  $\Delta 8.9\%$

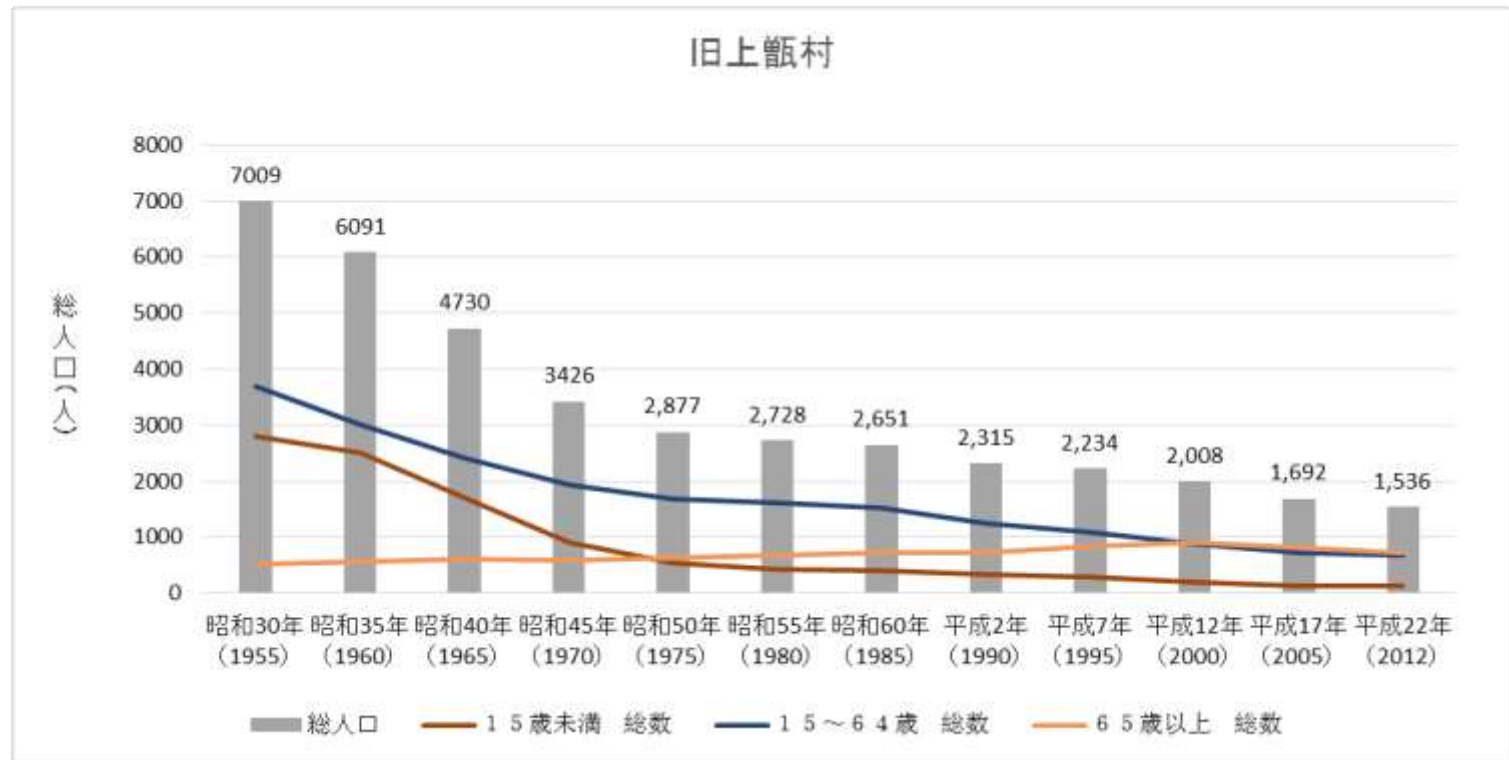
# 里地域の人口推移



昭和45年まで急激に減少し、昭和60年までは同レベルを推移していたが、その後減少傾向である。

平成17年→平成22年:  $\Delta 10.3\%$

# 上甌地域の人口推移



他地域同様、昭和30から50年まで急激に減少し、その後も減少傾向である。  
特に注視したいのは、平成7年から高齢人口が一番高く推移している。  
平成17年→平成22年:  $\Delta 9.2\%$



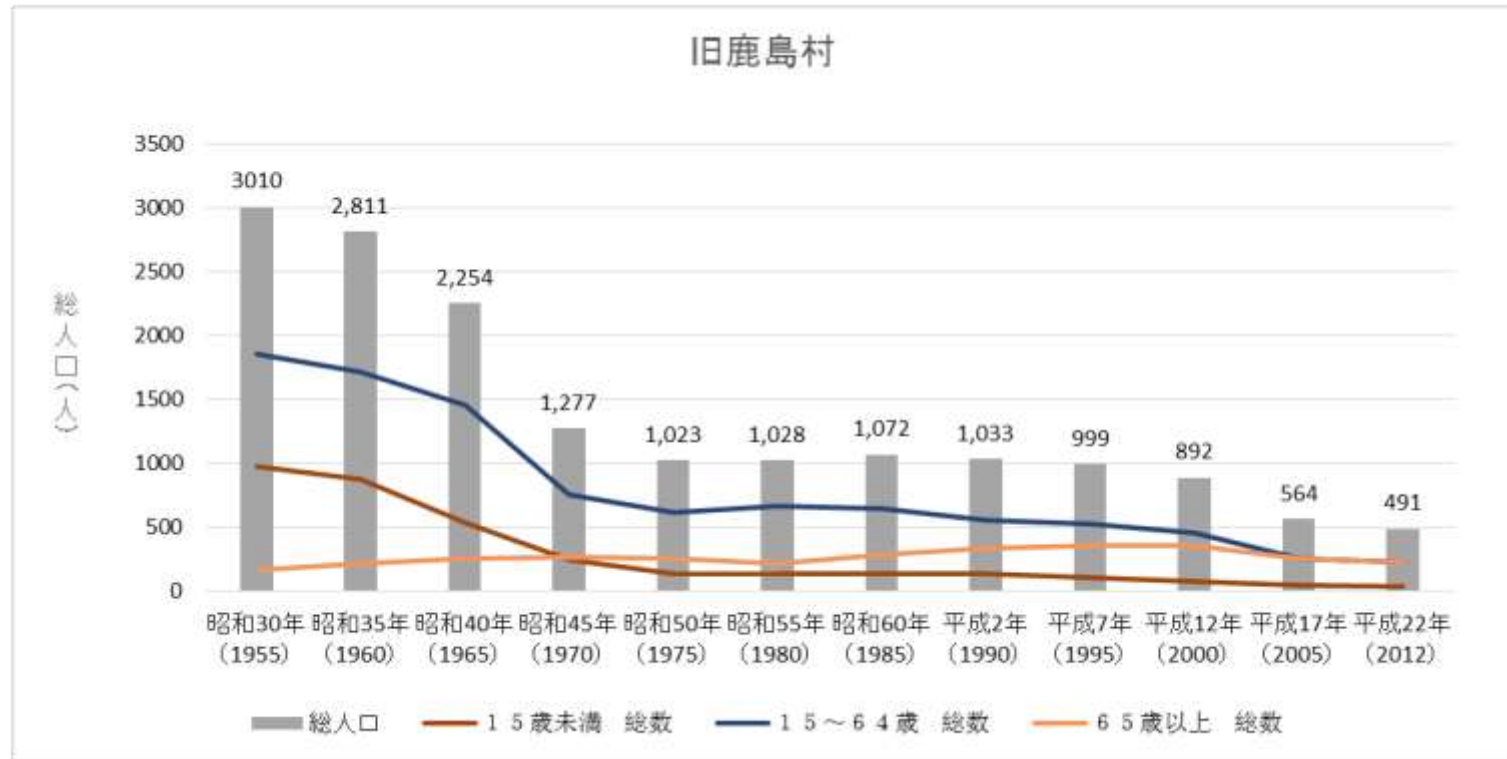
# 下甌地域の人口推移



他地域同様、昭和45年まで急激に減少し、その後も減少傾向である。約1万人から77%減少したことになる。

平成17年→平成22年:  $\Delta 10.1\%$

# 鹿島地域の人口推移



昭和45年まで急激に減少し、同レベルで推移したが平成7年以降、減少傾向である。特に生産年齢及び年少人口の減少が著しい。

平成17年→平成22年:  $\Delta 5.6\%$